



碧南ロータリークラブ週報

第2691回例会 平成26年6月11日(水)

- 会長 長田 豊治
- 幹事 岡本 明弘
- 会場監督(SAA) 角谷 信二

2013-2014 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内 TEL<0566>41-1100
- 例会場 碧南商工会議所ホール 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



- 会報委員 鈴木泰博・奥津順司・杉浦栄次

● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

切り紙屋「黒紙夢創」店主・猿投フォーク村 村長 黒紙好作様

会 長 挨 拶

桂宮さまのご逝去に心からの哀悼を申し上げます。

さて、理化学研究所の論文不正に関する対応にいまいち違和感を持っておりました。「科学論文」というものを、我々はどうも誤解しているのではないか。という丸幸弘さんのコラムがありましたのでご紹介いたします。



長田豊治会長

科学雑誌で有名なのは、「ネイチャー」「サイエンス」「セル」などの欧米の雑誌です。これに掲載されると一流の研究ということになっています。新しい論文の発表というのは、新しい世の中の真理が、科学者によってまたひとつ発見されたという感じに見えているのだと思います。しかもそれが超一流の科学雑誌に載ったら、これはもう間違いない、とされています。

しかし雑誌ですので週刊大衆や週刊新潮と同じくただの雑誌なのです。同じ誌面の中で「その論文、違うぜ」「いや、これが正しいんだ」と、追求しあっている本なんです。訂正、反論の紹介も当然よくあります。号をまたいで反論を載せ合ったりして、それによって投稿者たちは、全力で真実にたどり着こうとしているのです。ですから、あの雑誌の愛読者にとっては、小保方さんの論文を読んだ瞬間に、本当なの？、とまず疑います。それが普通の研究者

の視点なんです。これは、STAP 細胞の論文だから疑うのではなく、すべてを疑います。

実験中に、すごく面白いデータが出るとすると、先生の所に飛んでいきます。「先生、先生、こんなデータが出ましたよ」と持っていくと、間違いなくこう言われます。「あ、それ、何回目なの」「1 回です」「じゃあ、だめだよ」そして、実験をやり直します。3 回やり直したけど結果は変わりません。そうするとさすがに顔色が変わって、「お前の腕じゃ怪しいな」と言われます。

実験したのが身内でもまずは疑問の目で見ます。研究室のメンバーがやり直します。それで、結果が変わらなければ「すごいな、正しいぞ、これ。これは論文になるから一緒に頑張ろう」と普通はこうなります。徹底的に疑って再現実験を繰り返します。科学とは常に間違える可能性を含んでいるものだからです。そして、故意かどうかは全く別の問題ですが、「誤りを含んでいること」自体は大きな問題ではありません。データの解釈には常に推論を含んでいます。

そしてもしも「完全に正しい論文以外、発表してはいけない、掲載してはいけない」、ということにでもなったら、科学の推進力は大きく失われてしまうからです。「ネイチャー」を始めとする科学論文誌は、科学者が自分の論文の誤りを、みんなに見つけてもらう場所と考えれば納得がいきます。

人間だから誤りは避けられません。だから、世界中の優秀な科学者がよってたかって誤りを捜して潰す。そのために科学論文と、それを掲載する雑誌がある、という見方もできます。

もちろんデータのねつ造は論外です。しかし、間違いが発見されたらその都度ペナルティを食らうということになったら、もう研究なんか出来ません。理化学研究所の中のプロセスがどうなっているのかわかりません。でも普通はそうやって何人もの人がやり直しをしながら作っているのが論文です。

科学者の世界では、実験に臨む姿勢そのものは性善説で見えています。でも、うっかりミスや勘違い、論理矛盾は起こりうるし、いくら頑張っても見逃すこともあります。そこは、第三者として「他の研究者の批判的な目」に委ねよう、ということです。科学にとって大切なのは、疑問を持ち続け、誤りに負けずに研究を続ける姿勢です。論文の誤りの有無は、それに比べればたいした問題ではないとさえ思います。絶対的真理や無謬（むびゅう）を求める宗教とは正反対の発想なんです。

以上のような内容でした。

振り返って会長としてこの一年、誤りの多い一年であったかと思えます。どうぞお許し頂きたく存じます。有難うございました。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第12回理事会報告ならびに、例会変更等は幹事報告書の通りでございますので、よろしくお願い致します。

本日は、以上です。あと1回を残すのみとなりましたので、皆様、



岡本明弘幹事

よろしくお願い致します。

副 幹 事 報 告

次年度幹事よりご案内をさせていただきます。

- ・ 本日、次年度第3回理事会を201号室で開催させていただきますので、お集り頂きますよう、よろしくお願い致します。
- ・ ガバナー補佐訪問に伴う、クラブ協議会のご案内でございます。次年度、理事、役員、委員長の皆様にですが、7月16日水曜日になりました。タイトな日程ですが、例会終了後の13時40分から15時10分まで予定しております。101号室で開催致しますので、よろしくお願い致します。



伊藤正幸副幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 69 名 (内出席免除者 9 名の内出席者 7 名)出席者 57 名	
出席対象者 57/65 名	出席率 87.69%
欠席者 12 名(病欠者 2 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

- 石橋 嘉彦君 3人目の孫が生まれました。男です。
- 清澤 聡之君 先日、第21回浜風臘扇忌法要が盛大に勤まりました。大正館様には大変お世話になりました。
- 角谷 修君 本日の講師 黒紙好作様をご紹介させていただきます。
- 黒田 泰弘君 長田和徳君がとても良い中国土産を買って来てくれました。ありがとうございました。あと、伊藤正幸さんと少しだけハメを外しました。

卓 話

「今が最高という生き方 -黒紙好作の場合-」
切り紙屋「黒紙夢創」店主・猿投フォーク村 村長
黒紙好作様



黒紙好作様

こんにちは。黒紙好作です。今日は、「今が最高という生き方」と題しまして、唄をまじえて話しますが、こうやって第二の人生を楽しんでいるやつもいるんだなと思って聞いて頂けたらと思います。

さて、今日の話の内容ですが、最初に私の毎日が楽しいわけ、次に私の仕事、趣味、最後にオリジナル曲「桜の花が教えてくれた」を唄って終わりたいと思います。

私の毎日が楽しいわけですが、私は基本的に第二の人生は、今までがんばってきたご褒美だと思っています。第一の人生では教員を37年間やってきました。そこで第二の人生では、出来なかった事、諦めた事をやろうと考えました。まず名前から変えようと思いました。黒紙好作として生きる事にしました。

第二の人生には、健康、お金、生き甲斐の3つがあればいいと言われております。その中でも生き甲斐を大事にしております。定年を迎えた時に、妻から「週に3日は家を空けて下さい。」と言われました。そこで好きな切り絵をしようと思い、週に3日は出るようにしています。外出する事によって、仲間ができるようになります。全ては考え方次第ですので、プラス思考に生きようと思っています。

私の切り絵は、教員時代から始まります。最初は字を切っていました。そして自然と絵を切るようになっていきました。「おいらん」や「後ろ姿」、「夜桜」など色々な作品を作りました。2004年豊田市美術館展入選作品の「宴（美人風俗合・夢屋）」は作品が大きすぎて、切るのに半年かかりました。定年の2年前にはロビー展を色々な場所でやりました。

ここで黒紙流の切り絵の特徴をお話します。コピー機を使用、曲線美、彩画の3つです。

私の生徒の作品ではございますが、猿投の行事を切ったものもございます。観桃会、ほたるまつり、猿投の棒の手などです。

定年一年前、やっと豊田市美術展で優秀賞が頂けました。これでやっと切り絵師としてやっていけるかな、と自信がつかしました。

定年を迎え、まずは切り絵屋「黒紙夢創（こくしむそう）」を作りました。切り絵は、黒紙を切って、黒紙から夢を造り出すという思いからです。インターネット販売もやっております。黒紙好作の名刺も作りました。名刺には、何でも切ります、と偉そうに書いてしまいましたので、何でも切らなければいけません。そこで、浮世絵の和から現代の洋への変身、切り絵似顔絵を手掛けました。

切り絵の注文も切り絵、似顔絵を中心にだんだん入ってきております。

定年2年目には、似顔絵の指導を始め、マリリンモンロー、芦田愛菜、石川さゆりの似顔絵も切りました。年賀状が雑誌「サライ」に掲載されたり、テレビでも紹介されるようになりました。

去年は、風景画をテーマに、東海道五十三次の指導をしました。作品を切るのに3ヶ月かかりました。また、新美南吉生誕100年がきっかけで、安城にも進出できました。安城切り絵クラブが誕生しました。

定年4年目の今年、ライフワークがテーマで富嶽三十六景を切っています。一年6作品で6年間切りますので、70歳までは死ねないです。

さて、現職時代も二足のわらじを心がけていたので、定年後の第二の仕事として、シンガーソングライターを目指しています。

私がシンガーソングライターとして復活したのは、2011年の社会を明るくする運動での講演でした。猿投の加納小学校で3年間を楽しく過ごさせて頂きました。猿投への感謝の

気持ちを表そうと、「ふるさと猿投」の1、2番を作りました。3、4番は地域の方が作ってくれました。発表会当日は、勤めていた小学校時代の生徒の4年生達も唄ってくれました。

私の唄づくりの動機は、加山雄三のように女性にモテたい、という不純な動機でした。教員時代にも子供達の詩に曲をつけて唄っていました。今年は持ち歌100曲を目指したいと思います。

定年1年目は、一人で地域の行事で唄っていましたが、どちらかという唄づくりを力を入れていました。

定年2年目は、フォークソング仲間を募って「猿投フォーク村」を立ち上げました。村民を増やすために観桃会でロビーコンサートも行いました。

今度は趣味のお話をしたいと思います。一個飽きたら次のという事で、毎年新しいものに挑戦しております。

まず定年1年目は、今までやってきた趣味の世界をまとめてみよう、と、ロビー展をやってみました。今現在では8つほどございます。

1番古いのが、写真です。当時は本当にお金がかかりました。

陶芸は、年に2回のペースでやっていて、現在は変形狛犬づくりをしています。多少いびつでも褒めてくれるので嬉しいです。

木工でも狛犬を彫れたらいいかなと考えています。

それから、野菜作りです。きっかけは、酒のつまみぐらい自分で作ろうと始めたわけですが、今年は米作りに挑戦したいと思います。

カヌーは、大学時代はボート部だった事からやっておりますが、今年は目標だった四万十川下りも達成しました。

次はミニチュアハウスです。校長室に最初は花を飾っていたのですが、すぐ枯れてしまってお花代がかかります。地域のお年寄りが毎日来るようになりました。そのうち子供達も来るようになりまして、孫と話しているようで微笑ましくていい感じでした。

中でも1番はまっているのが、毎週あるガラス絵です。ここでは新しい仲間もできました。

仕事の一環としてブログも始めました。最初はブログの事が分からなかったのも、娘に頼んで教えてもらいました。これをきっかけに少し娘とも話せるいい機会になりました。

最後に唄って終わりたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

平成26年6月25日(水) 定款第6条第1節Cによる休会

平成26年7月2日(水) クラブフォーラム「役員挨拶」